



# 洋上アルプス

No.273 平成29年12月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) の視察受入れ 11月7日

環境パートナーシップ・CLUB（通称：EPOC）<sup>(※)</sup> 会員企業の18名が、EPOC企業活動「屋久島・宮崎方面の視察」の一環で当センターを訪れました。

EPOCでは、企業活動における環境保全や省エネルギー、低炭素エネルギーの利用拡大に加え、自然共生についても大きなテーマとして捉えており、その知見を高めるため、今回訪問されました。



保全センターの取組を紹介する様子

当センター所長より、森林生態系保護地域（屋久島世界自然遺産地域とほぼ重複）の保全と利用について取組を紹介した後、参加者からヤクシカが森林生態系へ及ぼす影響と適正な生息頭数管理、原生的なスギ林の更新サイクルの仕組みや、屋久島レクリエーションの森における外国人入山者の増加等についての質問があり、当センター職員も交えて活発な意見交換を行いました。

※：2000年に中部地域の産業界が中心となり設立された環境啓発団体で、業種・業態の枠を超え、産学官が連携し、循環型経済社会の構築を目指して様々な活動を実施している。

## 認定証レプリカの贈呈 11月15日～16日

本年5月に屋久島署管内にある森林軌道や宿舎、学校跡、さらに屋久島の林業を記録した古写真集等が、日本森林学会より2016年度の林業遺産「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」として認定され、認定証を頂きました。

この度、屋久島地杉を利用した額に納めたレプリカが完成したため、川畑屋久島署長が荒木耕治町長と屋久杉自然館の



荒木町長(右)へ贈呈:11月15日

佐々彰聰館長を訪問し、認定証のレプリカを贈呈しました。

荒木町長からは、「現在、建設中の新庁舎の町長室に飾るようにしたい」、佐々館長からは、「来館者に展示品と併せて林業遺産のことを紹介したい」と感謝されました。

今後とも関係機関や研究者と連携しながら認定された林業遺産を適切に保全して、後生にその価値が受け継がれていくように努めていく考えです。



佐々館長(左)へ贈呈:11月16日

## 沖縄県エコツーリズム推進協議会の屋久島視察

11月21日

沖縄県エコツーリズム推進協議会の関係者5名が、来年の奄美・琉球世界自然遺産登録を見据え、持続可能な観光資源の利活用の先進地として屋久島を訪れ、その一環として当センターを視察されました。

当センター所長より、施設内の屋久杉円盤等を紹介した後、屋久島世界自然遺産地域における屋久島の貴重な森林生態系の適切な保全と利用について、森林植生のモニタリング調査等の取組を紹介しました。

意見交換では、森林生態系保護地域でのグリーンサポートスタッフの活動や屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の役割や活動内容等についての質問があり、当センター自然再生指導官も交えて活発な意見交換を行い、次の視察地「白谷雲水峡」へと向かわれました。



屋久杉の円盤を紹介する様子

## 苗木の安定供給体制確立へ！ 10月12日

屋久島署会議室において屋久島地杉苗木生産協議会の設立総会を、屋久島署、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町の関係行政機関がオブザーバーとして立会いのもと、屋久島森林組合の寺田総務課長の司会進行により、島内苗木生産関係4社が参加して開催されました。

川畑屋久島署長からは、「本協議会は、屋久島林業の復活のための歴史的な第1歩であり、支援対策等を講じていきます」との挨拶がありました。現在、屋久島で最も課題となっていたヤクスギ苗木の安定的な生産をできることが期待され、今後増加する主伐・再造林を進めるための大きな起爆剤になることから、当署としては引き続き関係機関と連携協力しながら支援していく考えです。



会議の様子

## ゴケグモ類に注意!

- ・外来生物法に基づく「特定外来生物」に指定されているゴケグモ類が、国内各地で報告されています。屋久島町内においても、セアカゴケグモ・ハイロゴケグモが発見されました。
- ・ゴケグモ類は、繁殖力旺盛な外来の毒グモで国内でも咬傷被害が報告されています。咬まれた場合、まれに全身に痛みを感じ発熱・発汗症状が出る場合があります。
- ・ゴケグモ類は、日当たりの良い暖かな場所で、地面やプランターの底や室外機の裏、ブロックの裏やくぼみ、排水溝のふたの裏、ベンチや遊具の裏などに営巣、生息します。
- ・ゴケグモを発見した場合は、素手で触らず、殺虫剤などで確実に駆除することが大切です。万一咬まれた場合は、患部を水や石けん水で洗い流すなどして、医療機関に相談してください。医療機関受診の際、可能であれば咬んだクモ(死骸)を持参してください。



ハイロゴケグモ



ハイロゴケグモの卵

# 屋久島の蝶（第5回）

## — ヒメシルビアシジミ・クロマダラソテツシジミ —

久保田 義則（鹿児島昆虫同好会）

**ヒメシルビアシジミ** ヒメシルビアシジミは、開張1.5～2.0cmほどの地味なシジミチョウ(写真1)です。2005年以前、日本のシルビアシジミは種子島を南限とし本州(関東以南)・四国・九州とそれらの周辺諸島に生息する本土亜種とトカラ列島の宝島を北限とし宝島以南に生息する南西諸島亜種がいるとされていました。このことは、渡瀬ライン以北のトカラ列島の島々・屋久島・口永良部島・黒島・硫黄島・竹島には両亜種とも生息しないことを意味します。その後の研究から2006年には、南西諸島亜種は本土亜種とは遺伝的に系統が異なり、♂交尾器の形態的差異が明白であり、食草も異なることから独立種であることが明らかにされ、ヒメシルビアシジミと命名されました。

2008年10月、安房の健康の森公園で、2頭の小さな未知の蝶を採集しました。これが命名されて間もないヒメシルビアシジミの♂と♀でした。この蝶の春型は3月から発生するとの情報を得て、2009年は1年間健康の森公園に通いました。春が過ぎ夏が来て秋に入ってもその姿は見られませんでした。そして奇しくも前年採集した10月の同日に同所で1♀を採集しました。さらに10日間ほどの間に1♂1♀を追加採集しました。丁度この頃、公園に隣接して陸上競技場が併設されました。この結果、公園内の蝶達の食草は頻繁な草刈りにより除去され、蝶の楽園は消え、ヒメシルビアシジミも来なくなりました。それから7年経った2016年9月に、春田浜で1♂2♀を採集しました。

**クロマダラソテツシジミ** クロマダラソテツシジミは開張2.5～3.0cmほどのシジミチョウ(写真2)で、種名から分かりますようにソテツの若芽や若葉を食害する(写真3)害虫として知られています。

初めて屋久島への飛来が確認されたのは2007年8月で場所は平内公園でした。この後、2016年まで毎年飛来を確認しています。南部(栗生)～南東部(麦生)に飛来した蝶は、安房を経て宮之浦や一湊等へ北上し島全体へ広がります。屋久島での初見日は、2007年：8月25日、2008年：7月24日、2009年：6月15日、2010年：7月1日、2011年：7月10日、2012年：7月14日、2013年：7月8日、2014年：7月1日、2015年：7月7日、2016年：6月24日と、6月中旬以降になっています。屋久島においては4月から6月にかけてソテツの若芽が出ることが多く、クロマダラソテツシジミが飛来する頃には葉が固くなっていて、これまで大発生には到っていません。この蝶は飛翔力が強く、ほぼ毎年、屋久島を経て、九州本土、四国・中国・関西まで到達したことが確認されており、2009年・2011年には関東まで到達しています。現在まで冬の寒さには耐えられず、翌年の春まで生き抜くことは確認されていません。(おわり)



写真1. ヒメシルビアシジミ  
上:♂ 下:♀



写真2. クロマダラソテツシジミ



写真3. 幼虫に食害を受けたソテツ



### 屋久島の植物 ツルコウジ（サクラソウ（ヤブコウジ）科）

本州以南に生育する常緑小低木。屋久島では低山地の林床に見られる。茎は這い、赤褐色の軟毛が密生する。葉の鋸歯は大きい。ヤブコウジの茎に長い軟毛はなく、葉の鋸歯は細かい。マンリョウやセンリョウより実は少ないが、壺両として縁起物となっている(アルドオシを壺両とすることもある)。



## 高層湿原における植生分布状況等に関する調査（平成27年度）

### 【目的】

日本最南端の高層湿原である花之江河及び小花之江河は、湿原内に多数の希少植物の生育が確認されており、希少的及び学術的に非常に重要な場所である。

今回は、過去の調査と比較を行い、湿原環境動態変化の検証、ヤクシカの嗜好植物について食害の有無、被害の程度の把握を行った。

### 【調査内容】

過去の調査結果を踏まえ、土砂堆積量や水域環境（流路や淡水域の状況）、土壌（堆砂や泥炭の状況）、植生（群落域や湿原植物）、淡水産貝類二枚貝ハバマメシジミの生育状況調査を行った。調査にはカメラを搭載した無人飛行機（ドローン）を使用した空中撮影による調査も実施。

#### 1. 土砂堆積量や水域環境の状況調査

湛水域の変化、流路位置の把握。ドローンの撮影画像を基にした現地調査による、流入土砂が堆積している範囲の特定と堆積土砂量の把握。

#### 2. 土壌（堆砂や泥炭）の状況調査

湿原内に穴を掘り湿原コア調査（土壌断面調査）

#### 3. 植生（群落域や湿原植生）の状況調査

植生群落のドローンの空撮と現地把握を行い、湿原植生群落図を作成し植生群落の変遷把握。固定プロットの植生変化の把握。

#### 4. 淡水産貝類二枚貝のハバマメシジミの生息状況調査

コドラート調査を実施し、単位面積あたりの生育量を調査し、過年度との比較。コドラート周辺の生息状況調査。

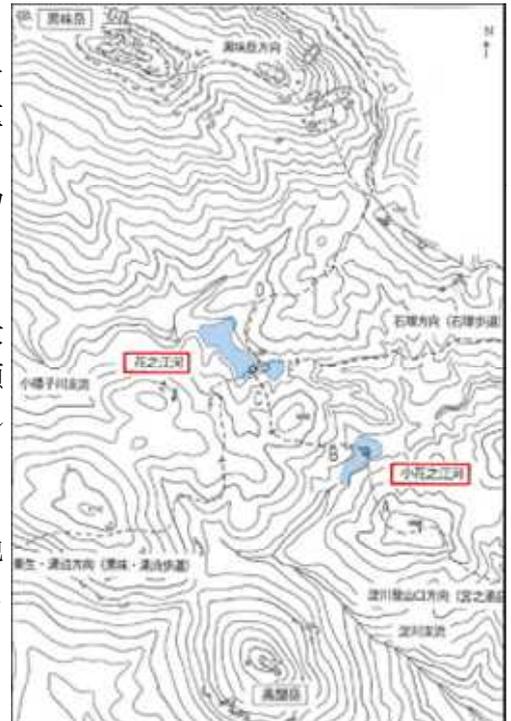


図. 植生分布状況等調査位置  
（花之江河・小花之江河）

## 縄文杉ケーブリング設備撤去 11月18日～19日

平成24年度の調査時に縄文杉の大枝に腐朽が確認されたため、平成24年度及び25年度に縄文杉大枝に応急的措置として大枝落下防止等のためケーブルやアンカー等を設置しました。

安全を最優先に考え旧デッキの解体・撤去、新設デッキの設置及び見学する歩道の整備等一連の工事が平成28年度末に完了しました。ケーブリング等については、



ケーブリング撤去作業風景（丸枠は作業者）



登攀技術を用いて作業を行う

自然の推移に委ねることが大事であり、

観光的にも景観を損ねる等の意見も出されました。

これらを受けてこの度、縄文杉大枝のケーブリング設備等を撤去しました。

今後においても、皆様と一緒に大切に見守りながら、保全整備に努めていくこととしています。

皆様も登山の時には、安全に注意し立入禁止区域への侵入は、絶対に行わないようお願いいたします。